

カメラ付きオンライン試験 の実際と限界

鶴見 太郎

東京大学大学院総合文化研究科（教養学部）地域文化研究専攻准教授
元・研究科長補佐・学部長補佐（2019/10～2020/9）

東京大学固有の事情

- 学部新生は全員教養学部前期課程に所属
- 2年次の前半までの成績で、3年次以降の学部や学科が決まる。
- 成績がよくないと人気学科には進めない



- 前期課程の定期試験は「第2の入試」と呼ばれることも。

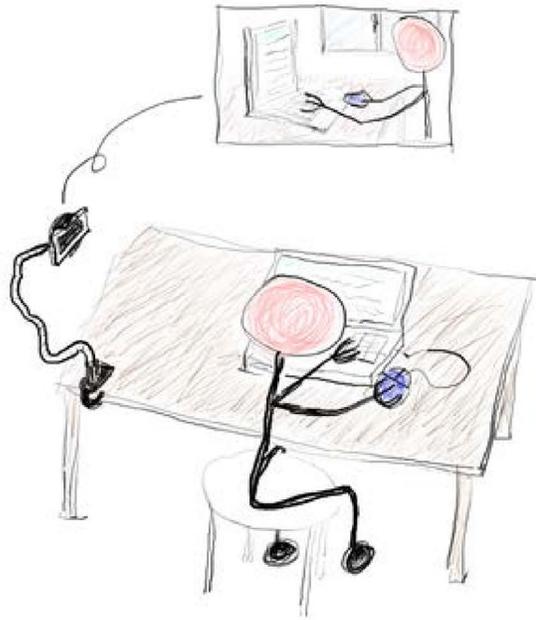
試験実施について考慮したこと

- 1) 不正防止（特に受講生同士の連絡と第三者支援などの、平均点に影響する集団的な不正）
- 2) 公平性（環境による違い、ネットや機器の不具合への対応）
- 3) 試験内容としての適切さ（処理能力テストにならないように）
- 4) 負担（学生と監督者双方にとって煩雑過ぎないこと）

不正防止のポイント

- カメラによる監視
- 手書き答案による筆跡
- 口頭試問とのセットによる抑止
- 設問・選択肢のランダム化や制限時間の短縮（ただしシステムの不具合を見越した予備時間や試験の質とのトレードオフ）
- 科目によるメリハリ（語学など、単発知識系の科目は不正防止が最も難しいが、論述系・数式系は監視は緩めに）
- 「性社会説」の観点

オンライン試験のガイドライン



「定期試験・レポート・小テストのガイドライン」の一部

オンライン試験のガイドライン

<ガイドライン発出後の学生の声>

- 「不用意な動きで不正認定されてはたまらない」
 - 機器セッティングやマニュアルが煩雑
- 相談会（2回）でとことん質問対応

オンライン試験のガイドライン

<3つの方式（+いくつかの独自方式）>

A方式（3点モニタリング）

B方式（無監視＋短時間口述試験）

C方式（手書き・手元モニタリング）

○科目の特性に応じて、学生の物理的・精神的負担をなるべく減らす。

○教員に選択肢を提示することで、なるべく無理なく公平性を担保してもらうようにする。

→ マニュアルは7種類、計100頁近くに。

オンライン試験のガイドライン

- スマホで対応可能なシステムとし、ウェブカメラも貸し出し。キャンパス内受験も用意
- Zoom接続が切れることを織り込んだうえで、切れた場合はB方式に切り替えるマニュアルを整備
- 事情がある場合は、A方式標準の試験でもB方式を認める
- Zoomに接続しつつGoogle Formsを介して出席登録・問題提示・解答（答案提出）が基本

オンライン試験（2020年7月下旬）の経過

○経過（173授業で試験）

- 1週目、1試験室でトラブル対処のなかで正解流出の可能性の事故発生（マニュアルと異なるやりかた、試験直前の一部やり方の変更、当日のGmailシステムのトラブル等複数の要因のうえに、試験監督のシステムへの不慣れによるもの）。
- そのほか、事前配布PDFのパスワードが入らないトラブルが頻出。週ごとにマニュアルを改訂し、随時注意事項を周知
- Zoomの接続切れは、当初の見積もり（60分の試験では10%がどこかで切れる）よりは少なく、Google Formsもほぼ安定。

オンライン試験の結果

○学生・教員ともに、大卒では、緊急避難的にはなんとかあったという印象のようだが、大変だったという声も多く、もう二度とやりたくないという意見、今学期は仕方ないが次学期はぜひ対面で、という意見も

- 実際にカメラモニタリングを用いた試験は全体の半分弱
- 期末試験の数も例年の2/3程度
- 半分程度が手書き答案方式

オンライン試験の限界

①Zoomの問題

- 個々の接続切れについては事前の想定よりやや少なく、B方式併用で問題なかった。
- Zoomミーティングの不具合が数件発生（会議室に入れないなど）

②Google Formsの問題

- かなり安定していたが、リセットや送信不良が若干発生（操作ミスによるものと、おそらくシステムの不具合によるもの）

③試験開始後の受験者とのリアルタイムのやりとり

Google Formsがブラウザ等によっては教員側ですぐ反映されない

学生が感じた不安・不満

- オンライン試験のための準備が煩雑
- マニュアルをしっかりと読んでいない学生のために試験が遅延
- 監督者の指示がわかりにくい。特に開始・終了のタイミングがわかりにくい
- 試験開始後のトラブル対応を音声でやり取りしていたため集中できなかった。
- 制限時間が短すぎる
- ネット環境その他の理由で家族と共用の部屋でやるので、家族に迷惑がかかった（16%の学生）

教員（監督者）の側の苦勞と若干の利点

- マニュアルが複雑で事前準備が大変
- 出席の確認をしながらギャラリービューを確認するのは困難
- Google Forms等の自動採点機能は便利